

香々地町、国見町の庚申塔

小泊 立矢

六郷満山文化の栄えた地、石造美術品の宝庫として、国東半島は近年特に有名になってきたようである。たしかに富貴寺、熊野の石仏などはよく知られ毎日多くの見学者が訪れているようである。しかし、これらの史跡に比べて、半島に数多く残っている、いわゆる野の仏たちについては、あまりよく知られていないのが実情ではないかと思う。そこで、ここではそれら野の仏たちの中で特に多く見られる庚申塔（野の仏といつていいかどうかかわからないが、）についてのべてみたいと思う。香々地町、国見町と限定したのは、他地域のものもは現在整理中のため、また特に多く集中している場所として選んだだけである。

一、庚申信仰

まず庚申信仰であるが、六十日ごとに行ってくる庚申の晩に人間の体内にいる三尸虫なるものが、人間の寝ている間に体からぬけだして

その人間の六十日間の罪過を天の司命という神に報告する、司命の神はその罪の軽重によりその人間にさまざまな禍を与える。だから庚申の晩は三尸虫が体内からぬけでのをふせぐため、徹夜をし、夜を明かすという道教の三尸説が根本になっている。現在では徹夜をする所はほとんどないが、庚申待を続けている所はまだ相当あるようである。この庚申信仰と庚申塔造立の關係であるが、庚申様の供養のために、また講の記念のために建てるのがほとんどである。その塔の形式にもいろいろあり、主尊に青面金剛を彫ったもの、あるいは猿田彦の像を彫ったもの、また文字で「庚申塔」「猿田彦大神」と刻したもの、墨書のため消えて見えなくなってしまうもの、様々である。なお国東半島内で最古のものは、豊後高田市平野にある文字塔で後生善処現世の安穩を願ったもので寛永元年の年号がある。

二、庚申塔の形式

① 主尊

江戸時代の初期には大日、釈迦、阿弥陀などいろいろな仏像が主尊になっていたが、寛文ごろから青面金剛が主尊となるようになった。

青面金剛の像様は「陀羅尼集経」中の大青面金剛呪法に次のように出ている。「一身四手、左辺上手把三股叉、下手把棒、右辺上手掌帖一輪、下手把索、其身青色、面大張口、狗牙上出、眼赤如血面有三眼

頂戴鬘髻頭髮聳堅如火焰色、頂纏大蛇、兩膊各有倒懸一龍、龍頭相向、其像腰纏二大赤蛇、兩腳腕上亦纏大赤蛇、虎皮綾袴鬘髻瓔珞、像兩脚下各安一鬼」しかし実際にはこの通りのものはほとんど無い。(庚申塔一覽表参照)

次に猿田彦であるが、この猿田彦と庚申を結びつけたのは山崎闇斎で、仏教徒が庚申の本地を青面金剛とするのに対抗して庚申の申と猿田彦の猿とを結びつけたと考えられている。形は木の葉の服を着た老人が、ひげをはやし、杖をついているというものである。

② 猿

庚申塔と猿の結びつきは山王信仰との関係から説明されている。板石塔婆に二十一仏の種子のものがあるが、この種子を山王二十一社の本地としたのは三輪善之助氏で、更にその中に庚申待、申待の文字のあることから庚申信仰と山王信仰との結びつきを問題とし、山王の猿(山王権現の神使は猿)と庚申の申との結合がなされたとしている。この猿の形式も、一猿あり、二猿、三猿ありとさまざまで、御幣を持ったもの、踊っているもの、合掌しているもの、烏帽子をかぶったものと、変化に富みなかなか面白いものである。

③ 邪鬼

大青面金剛呪法の二鬼に該当するものであろう。一鬼あるものはあ

まりなく、顔だけのもの、一鬼が腹ばいになっているものが多く見られる。

④ 童子

大青面金剛呪法に左右に青衣を着た童子が香炉を持して立っているというのを造像化したものであろう。持物は箱、御幣、笏、宝珠などで、合掌したのも見られる。

⑤ 夜叉

大青面金剛呪法 中に童子の右わきに赤黄の二葉叉が、左わきに白黒の二葉叉が恐ろしい姿をして立っているというのを造像化したものであろう。限られた石面に四夜叉を彫るのは大変なことで、省略されたものが多く見られる。

⑥ 鶏

鶏が庚申塔に刻されていることについては徹夜を司どるものとしてまた申の次が酉だからなどの説があげられている。

⑦ 半裸の女人(シヨケラ)

これは大青面金剛呪法には現われていないもので、青面金剛が半裸の女人を髪の毛をつかんでぶらさげているものである。これには二浦りの伝承があり、一つは庚申さまの弟子で、この晩に人が寝るかどうかを監視しているといい、もう一つは人間にいろいろと悪さをするの

で庚申さまがそれをおさえているのだという伝承である。なお、これをシヨケラとするのは決して全国的なことではないそうである。

⑧ 日月

主尊の上に刻出され瑞雲をともなったもの、あるいは日には赤色をほどこしたものの、月は三日目で表現したものといろいろある。それでの日月を意味するところであるが、中世からの日待・月待の影響からとか、庚申さまを作の神として信仰するところも多いから、日月清明に五穀豊饒を祈るためとかいうことが考えられる。

三、香々地町の庚申塔

現在刻像塔が五十二基、文字塔で文字のはっきりしているものが十三基、無刻のもの、墨書のため文字の消えてしまったもの約三十基、その他木彫の青面金剛像が二基、同じく猿田彦の像が一基ある。木彫のものはそれぞれ講中の家を順番にまわっている。(東夷・長小野地区)

造立年代は、元禄・宝永・正徳・享保年間と江戸時代初期後半から中期にかけて多く見られる。刻像塔の像様は、ほとんど一面六臂の青面金剛であるが、三面二臂のもの(㈬42これは磨崖)四面六臂のもの(㈬43)主尊の上に鬼の顔を彫ったもの(㈬57・58・59)など、かわった形式のものも見られる。なお夷小野迫の青面金剛は智拳印を結んでいる。

また国見町のものにくらべて、大きな相違点を二、三あげることができる。まず第一にシヨケラを有する青面金剛はわずかに一基だけ(㈬31)ということ、次に四夜叉を全部彫ったものが一基もないということ、邪鬼をふまえているものが少ないということ、青面金剛の像形のもの四基ある(㈬11・56・57・58)ということなどである。

なお造立場所であるが、作の神としての信仰が強いためか、ほとんどの塔は田嶋を監視するように、田嶋の方を向いて建立されている。

文字塔については一カ所に教基二十教基集まっているものがあるのでその中で一番数が多くある長小野の日枝神社についてのべてみよう。ここは鳥居をくぐり少し行っただけの枯れた大木の根もとに二十六基の文字塔が集められている。墨書のものが多く文字の判明しないものがほとんどであるが、中の教基には

奉修庚申石二世安楽処

と陰刻してある。三年に一回ごとの待上げの時に持ってきたものであろう。

最後に庚申待であるが、現在行なわれているのは佐古(この講中には文久二年からの庚申待の別扱帳があり、現在も使用されている。)夷(猿田彦を祭る神道庚申である。)など、ごく一部だけである。

四、国見町の庚申塔

国見町のは香々地町のものにくらべて大青面金剛呪法の儀軌に忠実に従ったもの、あるいは従おうとしたものが多く見られる。(厩22・33・48) 像様もほとんど一面六臂であるが、四面六臂のもの(厩2)

四面八臂のもの(厩43)などもある。香々地の庚申塔のところがべたが、国見町のものにはシヨケラを持っているが多い。(厩18・21・22・29・32・33・39・50・53) また四夜叉を彫っているものとして(厩21・22・33・48)このうち厩21のものはこれを彫ったためスペースがなくなつたのか猿・鶏の姿は彫っていない。次に邪鬼であるが二邪鬼のものが一基だけある。(厩32)これは顔だけの鬼をそれぞれの足の下にふみつけているものである。

その他、他地域でもほとんど類例を見ないものとして石祠型のもものが一基ある。(厩18・51)両方とも同じ形式で、四角の板石をコの字型に立て、その上に屋根をのせたような形のもので、コの字型にした一番奥の板石にそれぞれ背面金剛などを刻出したものである。

なお厩3558の猿は庚申信仰と関係あるかどうかかわからないが一応猿の像ということからあけておく。

山一つをへだてて接している国見町と香々地町、それでありながら塔の形式にいろいろと相違点が見られるのは「国更の三津」の一つ竹

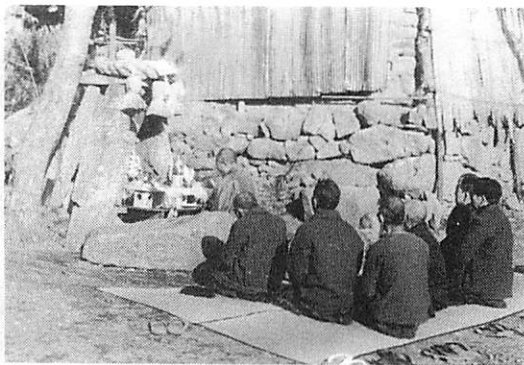
田津をひかえた国見には瀬戸内沿岸地域の石工が多く入ってきたのではないかと考えられるし、旧藩時代それぞれ杵築藩・延岡藩に支配されお互いの交流が少なかったからではないかとも考えられる。

国見町の庚申待は、竹田津小川原や櫛米などで行なわれている程度である。

おわりに

庚申塔をさがしまわり気づいたことであるが、現在ほとんどの庚申塔が人々から忘れさられようとしている。「この付近に庚申塔がありませんか」返答の大半が「そげなもんなあらせんで」である。信仰を伴っていない場合が多いので知らないのは当然かもしれないが、なんとなくさびしいような気持もする。このように身近に残された先祖の遺品を大切にすることが、結局は今さかんにいわれている文化財保護の精神を養うことになるのではないだろうか。

庚申信仰の一例（真玉町有寺の例）
 庚申塔（丸彫の塔）の前で僧侶
 が読経している。ただし講中の
 家で使用する掛軸は猿田彦の絵
 である。 →



一面の邪鬼の例
 （豊後高田市西都甲一の払） ←



国見町の庚申塔№2
 主尊の各腕、足に蛇がまきついて
 いる。猿は御幣を持つ。 ←

国見町の庚申塔 No. 8
 四夜叉を忠実に刻出した例
 主尊が鈴と数珠を持っているのも他に
 例がなく珍しいものである。



国見町の庚申塔 No. 7



国見町の庚申塔 No. 59

→



国見町の庚申塔 No. 29
 主尊がシヨケラを持っている。
 この塔の笠には菊の紋が入っている。



香々地町の庚申塔
 木彫の猿田彦像
 長小野地区で持ちまわりをする。

→



国見町の庚申塔 No. 37
 猿の表状が面白い。

→





香々地町の庚申塔 No.32 →
文字塔の一例。



香々地町の庚申塔 No.25 →
色彩がよく残っている。



香々地町の庚申塔 No.57 →
僧形の庚申塔。主尊の頭上に三面を
刻出しているか、どういう意味かよ
くわからない。



香々地町の庚申塔 No.27 →
主尊はネジリ棒を持っている。



香々地町の庚申塔 No.60 →



香々地町の庚申塔 No.29 →
猿田彦の像。

国見町の庚申塔一覽表

番	年	所在地	刻像文字
1	元禄十年	竹田津 西村	日、月 一面四臂青面金剛 一猿
2	十三年	井上	日、月、四而六臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
3	十三年	赤根 奥台	表面が剥落し「青面金剛」の文字のみ判名(文字塔)
4	宝永四年	千灯 千燈石仏橋	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
5	七年	竹田津 赤崎宮	日、月 一面六臂青面金剛 二鶏三猿
6	八年	若宮社	日、月 一面六臂青面金剛 二鶏三猿
7	正徳六年	向田 福厳寺	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
8	六年	〃	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
9	享保二年	竹田津 山境	一面四臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
10	三年	野田 タケヒロ	一面六臂青面金剛
11	三年	小館毛 常光寺	日、月 一面四臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
12	三年	岐阜 墓地	一面六臂青面金剛 二鶏三猿
13	六年	野田 御海越し	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
14	八年	野中 水口	一面六臂青面金剛 二鶏三猿
15	十年	竹田津 西村	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
16	十三年	中岐阜 稲荷社	日、月 一面四臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
17	寛保二年	榑来 田代	日、月 一面四臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
18	享保元年	榑海 大川内	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
19	二年	岐阜 天神山	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿

42	二年	野田 上園	一面六臂青面金剛 二童子
41	五年	榑海 万福寺前	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 一邪鬼四夜叉
40	寛延三年	鬼熊 普門寺	日、月 一面六臂青面金剛 二童子
39	宝暦七年	中岐阜 行者山	日、月 一面四臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
38	八年	向田 福厳寺	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
37	八年	中岐阜 上組	一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
36	十年	行者山	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
35	安永三年	新涯 牛頭社	猿田彦の像
34	八年	古江 岩少八幡	「青面金剛塔」(文字塔)
33	寛政三年	竹田津 京来下	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
32	文化九年	久保 蚕影社	日、月 「青面金剛塔」(文字塔)
31	文政十年	小館毛 常光寺	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二鶏三猿
30	天保三年	榑来 城山	日、月 一面六臂青面金剛 一邪鬼 二鶏三猿
29	弘化二年	鬼籠 銀命社	日、月 一面六臂青面金剛
28	嘉永元年	大館毛 日枝社	日、月 二童子 一邪鬼 四夜叉 二鶏三猿
27	五年	小館毛 常光寺	鈴を持った猿の像
26	五年	榑来 天鉢	「庚申之塔」(文字塔)
25	安政二年	島田 歳神社	日、月 一面六臂青面金剛 二童子 二猿
24	明治三年	野田 岡田社	「猿田彦像」(文字塔)
23	なし	竹田津 小高崎	一面六臂青面金剛 二鶏三猿
22	なし	紙園社	一面六臂青面金剛 二鶏三猿
21	なし	西村	一面六臂青面金剛 二童子 一邪鬼 二鶏三猿
20	なし	永福寺	? 青面金剛 二童子 二鶏

59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
向田 福敬寺	小館毛 常光寺	榎米 城山	中岐部 稻荷社	〃 池の下	上岐部 松林寺	千樽 政、所	野田 榎海越し	中村 鬼塚古墳	市 中 秋葉社	〃 禿、末	〃 竹の内	鬼籠 普門寺	〃 赤崎神社	〃 尾崎	〃 清浄光寺	竹田 小川原
日、月、一面六臂青面金剛、二鶏三猿	御幣を持った猿の像	「庚申塔」(文字塔)	風化はげしく判明できず、二童子三猿	日、月、一面四臂青面金剛、二童子、二鶏三猿	日、月、一面四臂青面金剛、三童子形	日、月、一面六臂青面金剛、三猿	青面金剛一童子一鶏一猿	一面六臂青面金剛二童子二鶏一猿	日、月、一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿	日、月、一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿	日、月、一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿	日、月、一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿	上半分欠損 一鶏一猿	一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿	一面六臂青面金剛一童子、二鶏三猿	四面八臂青面金剛一童子一邪鬼、二鶏三猿

香々地町の庚申塔一覽表

番号	年号	所在地	刻像文字
1	明徳二年	見目 東智庵	「(童子)奉贈庚申石塔(文字塔)」
2	寛文二年	長小野 三番支所内	「(童子)奉修庚申石(世安樂冬)(文字塔)」
3	延宝二年	日枝神社内	「千時延宝二年十月廿九日(文字塔)」
4	元禄元年	早田 塚原氏宅	一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿
5	九年	長小野 牛頭社内	日、月、一面六臂青面金剛一猿
6	十一年	早田 塚田氏宅	一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿
7	十四年	東夷(貴船社)	日、月、主尊の腕はあとでけずった様子
8	十六年	〃 焼尾	日、月、一面六臂青面金剛一鶏一猿
9	十七年	小畑 下小畑	日、月、一面六臂青面金剛二鶏三猿
10	宝永四年	長小野 上平	日、月、一面六臂青面金剛一鶏一猿
11	四年	叶淵(観音堂)	一面四臂青面金剛邪鬼二童子、二鶏三猿
12	五年	香々地 五郎丸	「青面金剛」
13	七年	前田 白ハゲ	日、月、一面六臂青面金剛一鶏一猿
14	七年	佐古 友弘観音堂	日、月、一面六臂青面金剛二童子、二鶏三猿
15	七年	秋本 草地内	主尊磨滅、邪鬼二童子、一鶏三猿
16	七年	前田 〃	日、月、一面六臂青面金剛一童子、二鶏三猿
17	八年	佐古 田の上	一面四臂青面金剛 邪鬼二童子、二鶏三猿
18	正徳元年	夷 小鼻	日、月、一面六臂青面金剛一鶏、三猿
19	二年	西夷 カンガ峠	日、月、一面六臂青面金剛二鶏三猿

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
						なし	大正元年	明治三十三年	慶応元年	天保六年	文化十年	四年	宝暦三年	二十年	十八年	十四年	十年	八年	五年	享保四年	三年	正徳二年
				東夷	東夷	夷	夷	見日	夷	羽根	羽根	見日	夷	見日	三角	夷	前田	夷		西夷	坂口	前田
坊中		焼尾	山神社	上追	貴船社	道園	西狩場	堀切	道園	浜		一ノ瀬	道園		施恩寺	道園	徳田	小鼻		横岳	御辰宮	台が端
三面一臂青面金剛 三猿	日、月「猿田彦大神」(文字塔)	一面六臂青面金剛 三猿	日、月「二世安樂所、敬白」(文字塔)	一面六臂青面金剛 二尊一猿	日、月 一面六臂青面金剛、二尊二猿	日、月 一面六臂青面金剛 二尊一猿	"	"	"猿田彦大神" (文字塔)	日、月「庚申」(文字塔)	日、月 一面六臂青面金剛、二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛、二童子、二尊三猿	猿田彦像	日、月 一面六臂青面金剛、二童子、二尊三猿	日、月 一面四臂青面金剛、二童子、二尊三猿	一面六臂青面金剛 夜叉、二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛、二童子、二尊三猿	「奉持青面金剛」(文字塔)	日、月 一面六臂青面金剛、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛、二尊三猿	日、月 一面四臂青面金剛、二童子、二尊三猿	一面六臂青面金剛 二尊一猿

65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
宝暦十四年	元禄十一年																					
羽根	東夷	高嶋	"	"	小畑	羽根	"	羽根	香々地	"	"	"	"	見日	"	片山	"	"	香々地	早田	秋本	前田
江ノ上	藤ヶ谷	山紙社	秋葉社	川久保	おび九村	秋成	福田寺夷	中塚	西浜	"	三安	山口	元兼	堂園	町管住宅	中山堂	兼峰	"	五郎丸	芳木氏宅	墓地内	寺道
日、月 一面四臂青面金剛 一尊、三猿	日、月 一面四臂青面金剛 二童子、二尊二猿	日、月 一面六臂青面金剛 二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛 二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛 二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛 二尊三猿	日、月 一面四臂青面金剛 一尊三猿	日、月 一面四臂青面金剛 那鬼、二童子、二尊二猿	一面六臂青面金剛 合掌坐像二尊 一那鬼、二尊二猿	一面四臂青面金剛 二童子、一尊二猿	一面六臂青面金剛 二尊一猿	日、月 一面六臂青面金剛 二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛 一尊二猿	日、月 一面四臂青面金剛 一尊二猿	日、月 一面四臂青面金剛 二童子、二尊三猿	日、月 一面四臂青面金剛 二童子、二尊三猿	日、月 一面六臂青面金剛 二童子、二尊三猿	一面六臂青面金剛 一猿	"	風化はけしく主尊判明せず。一尊二猿	一面四臂青面金剛 二童子、一尊三猿	風化はけしく主尊判明せず。二尊二猿	四面六臂青面金剛 一那鬼、一尊一猿